

一般社団法人 日本臨床検査自動化学会

平成 30 年度第 1 回理事会議事録

開催日時： 平成 30 年 4 月 6 日（金）12 時 00 分～13 時 30 分

開催場所： ホテル日航奈良 5 階 桔梗（奈良市）

出席者： 康東天理事長、
萱場広之理事、澤部祐司理事、〆谷直人理事、萩原三千男理事、
日高洋理事、栢森裕三監事、白井秀明監事、村上正巳監事

欠席者： 横田浩充副理事長、通山薫理事、和田隆志理事

議題 1. 理事長挨拶

1-1. 康東天理事長より、新年度早々の多忙な折に第 1 回理事会にご参集頂いたことへの謝辞があった。

1-2. JACLaS との費用負担について報告

・平成 29 年度から JACLaS からの寄付金は 1,000 万円とし、共催シンポジウムは継続するが費用負担はしないとなった。代わりに意見交換会を合同で開催することとした。特に平成 30 年度は、自動化学会の 50 周年記念を兼ねて「自動化学会・JACLaS EXPO 合同交流会（自動化学会 50 周年記念）」を、参加者 300 名を目標に開催する。参加費は 2,000 円／人とし、一人につき 8,000 円分を JACLaS が補助する。来年度以降も合同交流会の開催を継続する。JACLaS 各社から 1～2 名参加・総数 150 名、自動化学会から会員 150 名程度の参加が見込めるよう広報する。

1-3. 日本医療情報学会とのジョイントシンポジウムについて

・日本医療情報学会の理事長（東大・大江和彦先生）と協議の機会があり、日本医学会に加盟団体（日本医療情報学会）と非加盟団体（日本臨床検査自動化学会）とで合同の企画として「仮：AI を臨床検査に活かしていく」内容で、日臨技にも声掛けをする方向で今後検討を進めることとした。

1-4. 日本臨床検査標準協議会(JCCLS)理事候補者推薦について

・当会からは細萱先生に JCCLS 理事として参画していただいていた。JCCLS の標準化事業が継続中であり、細萱先生に引き続き理事として協力いただきたい旨の希望があり、継続推薦を了承した。

以上の報告があった。

議題 2. 報告事項

・総務職務執行状況が以下の通り報告された。

2-1. QRコード読み取り機購入について（萩原理事）

・新たに作成した会員証に印字されているQRコードを、大会受付などに活用するため、QRコード読取機を購入した。今回のセミナーで試験的に読取をし、動作状況は良好である。今後、大会や理事会・各委員会などの受付に活用するため、追加購入(5台程度)し受付の省力化と正確な参加者データの取得に役立つ予定である。

2-2. 賛助会員への特典について（萩原理事）

・賛助会員には、ランチョンセミナー案内を通常よりも1週間先行して案内し、優先して会場選定ができる特典を実施した。本特典の実施により1社(CGI)の入会があった。意見交換会に1社1名招待する案は、意見交換会はJACLaSと合同で開催されることになったため見送ることとした。

2-3. 新会員システム(G-system)での年会費納付状況報告（萩原理事、事務局）

・会員システムの立上により、クレジット・コンビニ支払が可能となった。4月4日現在、クレジット・コンビニ支払者：480名、郵便振込：799名であった。2018年度年会費支払者計1279名／支払い対象者2330名である。(参考値：2017/4/2時点の年会費支払者1308名)

・クレジット支払いが思ったより少ない(=郵便振替が多い)。クレジット・コンビニ支払いは、振込手数料の負担ない旨を一層広報し郵便振替の削減を促す。振込用紙の同封については次年度以降も継続する必要がある。学会の事前登録の仕組みが、早ければ来年に稼働の見込みであり、学会参加費の減額や機器展示の同時受付などのメリットを出してクレジット払いの増大に繋げていく。

2-4. 倫理COI委員会より（小谷理事、事務局）

・理事ならびに各委員会委員191名に倫理COIの提出を要請(2/22)。提出状況は、本日で168通を受領した(提出率：88%)。未提出者に督促状を送付し、全員の提出を進める。

2-5. 第65回日本臨床検査医学会学術集会共催シンポジウム状況報告（澤部理事）

・資料1に基づいて共催シンポジウム(案)4演題の説明があった。(4演題目の小谷先生は現段階で未承諾)

・担当地域の活動について各理事より報告

北海道・東北地区：自動化学会に直接関係する事案ではないが、精度管理の勉強会にメーカーから講師を招いて講演会を開催している。

関東地区：特になし。評議員推薦に検査部長・技師長や生理領域の方で、基準を

満たす方を探索する。

東海・北陸地区：検査医学会・臨床化学会の総会時(3月)、自動化評議員のアナウンスをしたが、今のところ当該者はなし。

近畿地区：特になし

中国・四国地区：特になし

九州地区：生理検査委員会の立ち上げの折、大分大学と産業医大の部長に参画をお願いしたいと考えている。

理事長から追加発言として、会員に還元する活動として、来年度くらいから年に2地区程度で、講演会を開催していくことを検討したい。企画・開催にあたって10~20万円程度の助成も含め、次回理事会に継続審議することとした。

・その他

2-6. 編集委員会より論文賞決定報告（萱場理事）

資料2に基づいて説明があり、5つの候補論文から点数付けをした結果、上位2つを論文賞として決定した旨の報告があった。

議題3. 審議事項

3-1. 遺伝子・プロテオミクス補冊のAmazon販売について（康理事長）

資料3に基づいて、中山委員長から会員向けにAmazonから販売されていることの周知をお願いしたい旨の要望があり、周知の文案について確認し承認した。

3-2. 評議員推薦について（康理事長、白井監事）

資料4~6に基づいて候補者3名の推薦理由の説明があった。審議の結果、3名を理事会として認め、次回の社員総会に提案することとした。

3-3. 倫理COI委員会より（メ谷理事）

資料7~8に基づいて、細則内の一部（額面等）に齟齬が認められたため修正した旨の説明があった。審議の結果、修正内容を承認した。

3-4. 生理検査委員会(仮称)の立ち上げに向けて（康理事長）

委員候補者を各地域から地域担当理事がリストアップすることについて、部長・技師長で生理専門の方が少ない。当初は小規模でも良く早期に委員会を立ち上げたいので、九州地区から2名(大分大学・産業医大)と前回の審議時に名前が上がった自治医大の谷口先生と帝京大学の古川先生に声掛けをする。理事会案として理事長から連絡を取って、次回の理事会で報告することとした。

3-5. 編集委員会より投稿規定改定（案）について（萱場理事）（資料 9～11）

前回理事会から継続で、資料 9 の(A)の研究倫理に関する部分を、資料 11 の(A)の内容を参考に規定見直し案の説明があった。協議の結果、1)人を対象：ヘルシンキ宣言に従う、2)遺伝学的検査：文科省・厚労省・経産省の倫理指針に従う、3)残余検体：日本臨床検査医学会の見解を参照、4)動物実験：日本学術会議のガイドラインに従う、の順番で記述することとし次回理事会で再度内容確認することとした。なお、改定日は 2018 年 4 月 6 日、適応日は 2018 年 9 月 1 日とした。

3-6. 学術委員会より委員新任・退任申請（日高理事）

資料 12～22 に基づき委員追加の説明があり、遺伝子・プロテオミクス委員会：9 人、微生物検査・感染症委員会：1 人、血液検査機器技術委員会：1 人の推薦者を委員として承認した。なお、本日の理事会後に開催される委員会から正式な委員とする。

3-7. その他

・次回の理事会開催日程

平成 30 年 5 月 20 日(日) 14 時 00 分～17 時 00 分、本会事務所開催とした。

以上

平成 30 年 5 月 20 日


一般社団法人 日本臨床検査自動化学会

理事長

康 東 天 


議事録署名人

(出席監事)

白 井 秀 明 

議事録署名人

(出席監事)

栢 森 裕 三 

議事録署名人

(出席監事)

村 上 正 巳 